

2018 年度

自己点検自己評価
学校関係者評価

報告書

[2018 年 12 月 20 日 実施]

学校法人 トヨタ神戸整備学園
専門学校

トヨタ神戸自動車大学校

【学校関係者評価委員】

氏名(敬称略)	会社	部署・役職
松野 来	トヨタ自動車(株)	国内サービス部
三宅 敏文	兵庫トヨタ自動車(株)	働き方変革室人材育成グループ 次長
平 勝治	神戸トヨペット(株)	営業本部技術グループ 係長
小林 弘章	トヨタカローラ姫路(株)	サービス課エグゼクティブトレーナー
中川 幸士	ネッツトヨタ兵庫(株)	サービス営業部 係長

〔任期〕 2018年4月1日～2019年3月31日

【学校側出席者】

氏名	部署・役職	氏名	部署・役職
大塚 生介	理事・校長	秋山 史彦	総務部 次長 兼 総務G・学生生活支援G主査
鈴木 二郎	理事・副校長	澤田 晃宏	教育部第2教育室 室長
山口 裕行	理事・教育部長	長澤 哲也	教育部第3教育室 室長
北村 豪久	学生部 部長代理	谷川 嘉夫	教育部 企画室 室長 兼 企画Gグループ長
杉原 徹	教育部次長 兼第1教育室 室長		

<事務局> 大田 英一（総務部総務G主幹）

【本日のスケジュール】

- 14:30～ 開会挨拶(大塚校長)
- 14:35～ 委員紹介・委員長選出
- 14:40～ 評価の進め方説明
- 14:45～ 各委員より意見聴取・意見交換 (途中休憩 10分)
- 16:55～ 閉会挨拶(山口部長)

目 次

基準1 理念・目的・育成人材像.....	1
【中項目】1-1 理念・目的・育成人材像.....	1
【中項目】1-2 学校の特徴.....	2
【中項目】1-3 学校の将来構想.....	4
基準2 学校運営.....	5
【中項目】2-2 運営方針.....	5
【中項目】2-3 事業計画.....	6
【中項目】2-4 運営組織.....	7
【中項目】2-5 人事・給与制度.....	8
【中項目】2-6 意思決定システム.....	9
【中項目】2-7 情報システム化.....	10
基準3 教育活動.....	12
【中項目】3-8 目標の設定.....	12
【中項目】3-9 教育方法・評価等.....	13
【中項目】3-10 成績評価・単位認定等.....	15
【中項目】3-11 資格・免許取得の指導体制.....	16
【中項目】3-12 教員・教員組織.....	17
基準4 学修成果.....	19
【中項目】4-13 就職率.....	19
【中項目】4-14 資格・免許の取得率.....	20
【中項目】4-15 卒業生の社会的評価.....	21

基準5 学生支援.....	22
【中項目】5-16 就職等進路.....	22
【中項目】5-17 中途退学への対応.....	23
【中項目】5-18 学生相談.....	24
【中項目】5-19 学生生活.....	26
【中項目】5-20 保護者との連携.....	28
【中項目】5-21 卒業生・社会人.....	29
基準6 教育環境.....	30
【中項目】6-22 施設・設備等.....	30
【中項目】6-23 学外実習・インターンシップ等.....	32
【中項目】6-24 防災（≒H30 防災・安全管理を分割）.....	33
【中項目】6-25 安全管理.....	34
基準7 学生の募集と受け入れ.....	36
【中項目】7-25 学生募集活動.....	36
【中項目】7-26 入学選考.....	37
【中項目】7-27 学納金.....	38
基準8 財務.....	39
【中項目】8-28 財務基盤.....	39
【中項目】8-29 予算・収支計画.....	40
【中項目】8-30 監査.....	41
【中項目】8-31 財務情報の公開.....	42
基準9 法令の遵守.....	43
【中項目】9-32 関係法令・設置基準等の遵守.....	43
【中項目】9-33 学校評価.....	44
【中項目】9-34 教育情報の公開.....	45

基準 10 社会貢献・地域貢献	46
【中項目】 10-35 社会貢献・地域貢献.....	46

基準 1 理念・目的・育成人材像

【中項目】1-1 理念・目的・育成人材像

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	学校運営の基本的な考え方を示すもので、明確に定める必要があり、外部にも周知を行う	なし	◆理念として、設立目的・教育目標・運営方針を定め、パンフレット・HPに掲載。 ◆育成人材像は教育目標の中で表現している。	なし
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	関連企業のニーズを把握し、それに沿った育成人材像の構築を行い、明確に定める	なし	◆学校設立時に関連企業のニーズも勘案した上で、教育目標（含む育成人材像）を定めている。	なし

特記事項

<p>理念</p> <p>【目的】 21世紀の業界を背負って立つ人材の育成 業界の中核そして将来は管理職、経営者の輩出</p> <p>【教育目標】 「つねに時代をリードできるカーテクノロジーのエキスパート」になりうる基礎の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロとして活躍できる技術を学び、技能を身につける 2. 人から信頼される豊かな人間性を養う 3. 時代とともに成長できる向上心を培う <p>【運営方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しい学習 2. 快適な学生生活 3. 心の通う交流

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】1-2 学校の特徴

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の)課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
1-2-1 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	トヨタ系企業への就職を軸に、即戦力となり得る人材育成に向け、充実した設備、教材、教育内容等を備える		<ul style="list-style-type: none"> ◆トヨタ自動車創立校として、トヨタ車を教材とし、高難度診断機器の取り扱いやハイブリッド車対応等に取り組んでいる。また、新技術実習棟を造り高度技術教育の充実を図っている。 ◆ビジネス演習室、高度診断機GTS、HV・PHV・燃料電池車等を教材として配備、適宜更新を行っている。 ◆定期的に教員がトヨタ自動車の技術教育を受け、最新技術を教育に織り込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後普及していく最新技術（自動運転・コネクテッドなど）についても積極的に教育へ織り込んでいく。
		<ul style="list-style-type: none"> ◆トヨタ自動車のステップ教育変更に伴い、教材・教育内容の見直しが必要である。 (2020年度よりトヨタ三校とも導入予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ステップ教育変更に伴い、1・2年次の教育内容の見直しを実施中（2019年4月から1年次教育を実施する予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆見直した教育内容の実施（1年次）と評価を行う。

特記事項
2016年度：新規車両（新型プリウス、C-HR） アライメントテスター更新、ホイールランサー4台更新 燃料電池原理学習キット12セット、モジュール教材6セット購入 2017年度：新技術実習棟新築（4輪シフト付モーター、アーム式リフト3基新設） 新規車両（プリウスPHV）、GTS6台追加 2018年度：1NRエンジンポンプ12台更新 車体整備専攻科用に、塗装ブース1基、フレーム修正機1台設置

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
<p>HV の授業内容はどの程度まで取り入れられているか教えていただきたい。 自動運転に関してトヨタの考え方は「ドライバーの操作主体」という考え方を根本に意識してほしい。</p>	<p>HV 授業内容 【自整科】 ⇒HV マニュアル 1 ステップ HV 基礎知識、低圧電気取扱安全衛生教育、ブレーキフルード・冷却水交換作業、フェイル走行体験 【高度科】 ⇒HV マニュアル 2～4 ステップ HV 構造作動、運転状態と制御（共線図） 故障診断の進め方 自動運転に関しては、TMC の技術講演でも「ドライバーの操作主体」という話がありましたので、学生にも伝えたいと考えています。</p>
<p>教員の方がトヨタ自動車を受けた技術教育のうち、どのような内容を教育に織り込めたのか、参考に伺いたい。</p>	<p>エンジン電子制御 ⇒空燃比制御、ダイアグ検出の進化 HV⇒制御説明(#20,30,50)、フェイル走行(自)、故障診断 CAN 通信⇒信号電圧のメカニズム説明、バス診断(自) コモンレール⇒基本構造、燃料噴射制御 TSS⇒P・C 構造作動(自)、制御の概要(自) FCV⇒FC スタックの構造、点検方法</p>

【中項目】1-3 学校の将来構想

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
1-3-1 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	中期的構想で、3～5年先における学校のあるべき姿を明確にしている	◆新学科を円滑に立ち上げる。	◆企業ニーズおよび新技術に対応するための教育・設備更新を計画的に進めている。 ◆社会の環境変化に対応し、教育体制・教育内容の見直しを検討している。 ◆2019年4月新学科（ショールームスタッフ科、車体整備専攻科）開設に向け、立ち上げの準備をしている。	◆留学生数増加に対応できる教育体制を整備する。 ◆高度自動車科担当教員の技術力・教育力の向上と育成方法の整備。

特記事項

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
新学科の教員の確保について	現在籍の教員で対応しますが、一部は外部講師に依頼します。

基準 2 学校運営

【中項目】2-2 運営方針

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	教育活動、学校運営の根幹となる設立目的・教育目標とともに運営方針を定め、全教職員に周知、浸透を図る	◆取組姿勢の「不断の改善の推進」はまだまだ実践不十分である。	◆設立目的・教育目標とともに運営方針・取組姿勢を定め、学内 HP に掲載する等全教職員に周知し、毎年教育活動、学校運営を行っている。 ◆「不断の改善の推進」に向けて、今年度部方針にあげて、授業の引継ぎの徹底に取り組んでいる。	◆「不断の改善の推進」は、継続的に取り組む。

特記事項

【運営方針】

1. 楽しい学習
2. 快適な学生生活
3. 心の通う交流

【取組姿勢】

1. 職員各人および各課、各G、各々が、さらには学校全体として不断の改善を推進
2. 職員各人プロフェッショナルとして、また真に配慮の行き届く組織として方針を展開

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】2-3 事業計画

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度事業計画を策定し、理事会・評議員会の承認を経て執行する。 事業計画を達成するために各部方針を定め、業務分担、目標等を明確にする 	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆3月の理事会・評議員会にて翌年度の事業計画、5月の理事会・評議員会にて前年度の事業報告について承認を得ている。 ◆事業計画に基づいて部方針を策定し、項目毎に主担当、スケジュール、達成目標を定めて推進している。 ◆厳しい経営環境の下、中期経営計画（学生数・支出・投資・体制）を策定している。 	◆学生数の変動に伴い、中期計画は毎年度見直す必要がある。

特記事項

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】2-4 運営組織

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価のイ) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	寄付行為に基づき理事会・評議員会を開催し、組織運営に関して適切に審議・承認を行い円滑に法人・学校の組織運営を行う。	なし	◆寄付行為に基づき理事会・評議員会を年2回定期開催（3月：事業計画・予算、5月：事業報告・決算）し、さらに必要な場合は臨時開催している。	なし
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	業務分担、職制が明確な組織体制で円滑な学校運営を行う。	なし	◆校長の下に教育部・学生部・総務部の3部において学校運営を行っている。 ◆課題に応じて個別プロジェクトを設置し対応している。(新学科プロジェクト、個別学習指導プロジェクト、自整科授業見直しプロジェクト) ◆H30年度にモラルサーベイを実施し、組織全体の課題を把握する取り組みを行っている。	◆モラルサーベイの結果、一層の職場コミュニケーションの促進など改善が必要

特記事項

・定例理事会・評議員会 : (3月) 事業計画・予算、(5月) 事業報告・決算

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
コミュニケーションの促進のための実施事項・予定などは？	人事考課時の面談の充実、人事諸制度の丁寧な説明、ミーティング・朝礼の着実な実施。他部署の職員と交流できる機会の創設なども検討中です。
モラルサーベイの調査内容（質問事項・結果） 可能であれば教えて頂きたい。	アンケート方式ではなく面談を実施しました。

【中項目】2-5 人事・給与制度

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 人事・給与については就業規則・給与規則、それに沿った内規を定め運用する。 採用・人事考課・昇級・昇給については規則・内規に従って運用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆次年度以降定年退職者が出始めるため、60歳以降の継続雇用者の具体的な働き方及び賃金の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆就業規則・給与規則他規程を定め運用している。また、労働関係諸法令の改正対応も適宜行っている。 ◆人事考課・昇級・昇給等人事制度は規則・内規に基づき毎年定期的実施している。 ◆採用は中期的な要員計画に基づき、毎年若干名の新卒採用（教員）を行っている。 ◆上級職の人事考課基準の見直しを行っている。 ◆定年退職者の60歳以降の継続雇用者については個別に働き方・賃金を定め運用している。 ◆55歳役職定年・60歳定年予定者に対して十分な説明が行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆50歳以上の職員を対象に役職定年・定年制の説明を個別に行う。 ◆上級教員の制度については検証が必要である。

特記事項

- ・給与規則の別紙に職能基準給、職能個人給基礎額、年齢給テーブル設定している
- ・H26年4月、就業規則を改定し、満65歳までの継続雇用について記載。および「満55歳に到達した職員の取り扱い規則」を制定
- ・H30.6に退職金規定の見直し改定を実施。
- ・新卒採用は、H30：2名、H29：1名、H28：2名、H27：1名、H26：2名、H25：1名、H24：2名

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】2-6 意思決定システム

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価のイ） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・意志決定の最高機関である理事会及び「権限移譲に関する規定」に基づき意思決定を行う。 ・寄付行為、りんぎ規定で基準を明確にする。 	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆2回／年定例の理事会を開催し事業計画・予算、事業報告・決算等の承認を得ており、必要な場合は随時開催している。また、「権限移譲に関する規定」に基づき理事会の他理事長、校長が委任された事項の意思決定を行っている。 ◆寄付行為、りんぎ規定を定め運用している。 	◆りんぎ決裁・購入依頼書手続きの一部が重複するため効率化が必要である。

特記事項

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】2-7 情報システム化

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
2-7-1-1 情報システム化により業務の効率化、教育の充実、学生募集の充実を図っているか（各部）	<ul style="list-style-type: none"> 各業務のシステム化は費用対効果を考えて実施する。 最新の情報システム技術（SNS など）の活用を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 各業務システムを導入し効率化を図っている 会計、人事/給与システム、預り金管理システム、固定資産管理システム 教務（出席・成績・学籍・カリキュラムなど）システム、就職システム 募集/入試システム。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在のシステムでは次の2点の対応ができないため検討が必要。 H31 年度開設の新学科の学費・寮費・預り金の請求及び精算 H31 年度より実施する学費分納制度への対応
			<ul style="list-style-type: none"> 入学式・卒業式のご来賓の出欠確認などにWEBシステムを活用し業務効率化を図っている。 LINE を活用し、寮監が寮生と円滑に連絡が取れる仕組みを構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務システムは使いにくく効率的でないため見直しが必要。 留学生増に伴い、管理システムの検討が必要。
			<ul style="list-style-type: none"> 授業における情報システム化（電子黒板、動画の活用、学生のタブレット保有など）は検討が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のIT化に向けた検討体制をつくる。 学生向けポータルサイト開設の検討も必要である。
			<ul style="list-style-type: none"> 学生募集における活用促進及び利便性向上を図るため、学校HPのメンテナンスを実施。併せてSNSを活用しタイムリーに情報発信を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人事異動に伴うHP、SNS等スキル及びノウハウの引き継ぎ・人材育成が必要である。
2-7-2 情報システムのセキュリティ対策を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> システムセキュリティポリシー・マニュアルを定め対策を行う。また、システム担当者に対して遵守を徹底する。 		<ul style="list-style-type: none"> システムセキュリティポリシー・マニュアルに基づき主に以下の対策を講じている。 <ul style="list-style-type: none"> アクセス制限、バックアップ、ウイルス対策、ログ監視、デバイス利用制限等 	
		<ul style="list-style-type: none"> システムセキュリティポリシー・マニュアルを年度内に改訂する。 	<ul style="list-style-type: none"> システム担当者が退職したため年度内に改訂が完了できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 後任のシステム担当者に引継ぎを行い改訂を完了させる。

特記事項

H29 に外部宛てメールのログ監視、添付ファイル送信時の誤送信防止ソフトを導入
H29 年度より、学生募集においてリスティング広告・Twitter の活用を開始

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
様々な部分で IT 化が進んでおりますが、システム担当は 1 名で大丈夫なのか？	業務系システムの運用は外部業者と保守契約を結んでおり 1 名で対応できると考えていますが、授業や募集における IT 化を進めるためには、新たな人材の育成が必要と考えています。

基準3 教育活動

【中項目】3-8 目標の設定

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
3-8-1 育成人材像に沿って具体的な目標が設定できているか	・各学科ともに育成人材像に相応しい目標を設定し、提示できている。	なし	◆各学科の目標は「目標人材像」として設定し提示している。	なし

特記事項

【目標人材像】

＜自動車整備科＞

1. 自動車整備の技術/技能とともに、接客の基本・業務知識を身に付けている
2. 自らの役割を認識し、自ら考え、行動できる力を備えている
3. 向上心・責任感に溢れ、確かな信頼感・協調性を備えている

＜高度自動車科＞

1. 自動車技術/整備技能に加え、幅広い業務知識・教養を身に付けている
2. 自ら課題を発見・探求・解決する力、自らの考えを表現する力を備えている
3. 自律心・向上心・信頼感に溢れ、的確なリーダーシップを発揮できる

＜ショールームスタッフ科＞

1. サービス・営業に通用する幅広い自動車の知識・技術を身に付けている
2. ホスピタリティ溢れる接客応対力を備えている
3. 人から信頼される豊かな教養・人間性を備えている

＜車体整備専攻科＞

- 一般整備に加え、溶接・板金・塗装などの幅広い知識・技術を身に付けている

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】3-9 教育方法・評価等

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	目標人材像の育成に向けた教育課程を編成する	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育課程は目標人材像の育成に向けて編成している。 ◆教育課程は社会のニーズや技術の進化を踏まえて、適宜見直しを行っている。 	なし
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	社会環境の変化に対応するため、定期的に外部の意見を聴取し、教育課程の改善に取り組む	◆今後も継続的に外部の意見を反映していく。	◆理事会・評議員会、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会で外部の意見をいただき毎年反映させている。	◆今後も継続的に外部の意見を反映していく。
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	自動車業界・販売会社で仕事をするために身に付けておくべき知識・能力を養う教育をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ◆昨年度、見直したキャリア教育の実施と改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自動車整備科・高度自動車科共に、年次に合わせたキャリア教育を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備科 <ul style="list-style-type: none"> 1年次 「企業が求める人材像」 2年次 「社会人に求められるコミュニケーション」「会社組織とキャリアステップ」「インターンシップ」 ・高度自動車科 <ul style="list-style-type: none"> 2年次 「卒業生からの講話」 3年次 「自動車業界の各職種の理解」 4年次 「インターンシップ」 ◆「社会人に求められるコミュニケーション」「会社組織とキャリアステップ」を実施し、高評価を得た。 	◆新学科（ショールームスタッフ科・車体整備専攻科）のキャリア教育を策定する
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生アンケートを定期的に行い、授業及び教員指導の改善を図る	なし	◆学生アンケートを2回/年実施 授業評価に対する改善案を具体的に策定し、行動に繋がられる評価シートを活用している。	なし

特記事項

※教育課程＝各学科の教育内容及び授業計画全般を示す
 ※キャリア教育＝職業教育と解釈
 H25年度より学校関係者評価委員会を開催
 H26年度より教育課程編成委員会を開催

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
教育課程について、外部の意見とあるが、どういった内容を取り入れ、どう変化したかを教えていただきたい。	平成 29 年度 2 年生全員に「トヨタ検定 3 級試験」を実施。 平成 30 年度 2 年生全員に「TSS エーミング作業」を実施など

【中項目】3-10 成績評価・単位認定等

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価のイ) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	「履修成績評価基準」「修了判定要領」「成績評価(ランク)」についての基準を明確化し、適切に運用する	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆成績評価は「修得試験結果および平常点」で行っている。 ◆修了認定は「全科目の修得試験に合格していること」を学則に明記し、認定会議で決定している。 	なし
3-10-2 作品及び技術等の発表を評価しているか	在校生の製作物・発表会を評価する仕組みがある。	<ul style="list-style-type: none"> ◆昨年度の高度自動車科の研究発表会を踏まえ教育内容・方法の改善に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高度自動車科は研究・検証授業の成果を発表させ、成績評価している。 ◆高度自動車科の研究・検証授業において、工程ごとに評価し指導するよう教育方法の改善を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ショールームスタッフ科、車体整備専攻科の授業においても製作物を評価する仕組みを整える。

特記事項

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
3-10-2 作品及び技術等の評価について、現状評価が高度自動車科に限ったの評価になっているが、自動車整備科における評価は無いのか？	自動車整備科は、授業内での製作物・発表会は現状実施しておりません。成績評価の対象ではありませんが、学園祭で技術・技能コンクールを開催し、各クラス 20 名程度の学生が出場しています。

【中項目】3-11 資格・免許取得の指導体制

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ【参考】(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
3-11-1 目標とする資格は、教育課程上で、明確に位置づけているか	目標とする資格が着実に取得できる教育課程となっている。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学科とも目標とする資格を取得する教育課程をつくり実施している。 ◆高度自動車科の教育課程は国家1級資格の取得率向上に向け、毎年改善は行っているが、2年連続合格率が不満足な結果である。。 	◆高度自動車科の教育課程の大幅見直しを行う。
3-11-2 資格取得の指導体制はあるか	各資格の教育において、レッスンプランを備え、十分な知識・技能を持った教員が担当している。	◆指導者変更時の教育方法の引継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ◆各資格とも、有資格者もしくはそれに相当する知識・技能を持った教員がレッスンプランを基に教育している。 ◆指導者変更時の引継ぎは、引継ぎ会を設定し、引継ぎシートを元を実施する仕組みを構築した。 	◆進化していく技術と国家1級試験の難易度上昇に追従していくため、高度自動車科担当教員の技術力・教育力の向上を図る。

特記事項

目標とする資格

<自動車整備科>

国家2級自動車整備士 トヨタ技術検定3級 低圧電気取扱い者

<高度自動車科>

国家1級自動車整備士 トヨタ技術検定2級 トヨタエスティメーション検定3級

トヨタ業務認定D級 ビジネス能力検定2級 文章能力検定準2級

漢字能力検定準2級

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】3-12 教員・教員組織

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価のエ) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	一種養成施設指定基準の教員要件を満足している教員が授業を実施している	なし	◆学校採用教員およびトヨタ販売店からの出向教員により、必要人員数およびその資格を満足している。	なし
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員としてふさわしい知識・技能・技術・教養の向上ができるよう定期的な研修を行うと同時に自己啓発に取り組む		◆新技術理解のため、トヨタ自動車技術講習などを受講し、全教員に展開している。 ◆学生指導力向上のための研修等も継続的に実施している。 ◆教員個人との期首面談時に、自己啓発の取り組み計画を確認しながら進めている。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員組織において、業務分担や責任体制は規程等で明確にしている	◆各室に教科リーダーを設けているが十分に機能していない。	◆部の下に学年ごとの教育室を設け、学年内で連携した教育実務を行いやすい体制を構築している。 ・業務分担は業務分担表にて明確に定めている。 ・責任体制は、職位に応じた決裁基準を設けている。 ◆各室の教科リーダーの役割が、試験問題のチェックに留まっており、十分に機能しているといえない。	◆教科リーダーの役割を再整備し、改めて意識付けを行う。

特記事項

2018年度 教員研修実績 (抜粋)
 8月 兵庫県専修学校各種学校連合会 教員教養講習会
 トヨタ自動車技術講習 (CAN通信)
 学内教員研修会 (カローラスポーツのCONNECTED技術について)

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
3-1 2-3、前年同様の課題となっていますが、教科リーダーの役割について教えて頂きたい。また教科リーダーの業務負荷が大きいのではないのでしょうか？	現状、教科リーダーがあまり機能していないため、上級教員に対して、役割を業務レベルで明確化し展開予定、次年度から実施します。
各室の教科リーダーの役割があまり変化していないように見受けられるが、なにか原因はありますか？	教育意図や到達レベル確認、教科単位で考えた時流に沿った教育内容の改善のため、一定のチェック機能は必要と判断しています。
教科リーダーは必要なのか？現状、無くても問題無いのであれば無理に作らなくてもいいのではないのでしょうか？1度無くしてみるのも1つの方法かと思えます。	

基準 4 学修成果

【中項目】4-13 就職率

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職率 100%に向け、学生への就職活動支援を充実させる	◆現状就職率 100%達成できておらず、就職適性の極めて低い学生がいる。個々の特性に応じた就職先の開拓を行っていく。	◆就職率 100%に向け、以下の内容に取り組んでいる。 ①就職対策講座の実施 ②企業採用担当者による講演実施 ③夏休み企業訪問の推進 ④企業研究セミナーの開催による就職先研究 ◆留学生に関しても希望に沿った就職支援ができてい る。 ◆2017年度は障害者枠就職の道を作った。2018年度は民間工場の就職先の開拓を考えている。	◆今後の留学生増加に対応できるよう、外国人採用を行う企業の開拓を進めていく。 ◆個々の特性に応じた就職先の開拓は引き続き行っていく。

特記事項

- ◆就職率
 - ・2016年度 高度科100% 自整科99.4% (未内定者2名)
 - ・2017年度 高度科100% 自整科100%
 - ・2018年度 高度科100% 自整科99.4% (未内定者1名)
- ◆トヨタグループへの就職率
 - ・2016年度 95.8%、2017年度 93.6%、2018年度 93.0% (内定率)

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
夏休みの企業訪問について「就職活動」に対する意識を高めてから参加をしてほしい	7月の就職ガイダンスで企業の人事担当の方と当校就職担当者から、また夏休み前には担任からの意識付けを行っています。 具体的にはどういった所が弱いのか教えていただきたい。
民間工場の就職先の開拓の結果を教えていただきたい。	数社聞き取りを行ったが、今年度開拓までの必要はなくなったため中断しました。

【中項目】4-14 資格・免許の取得率

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価のイ) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
4-14-1 資格取得率の向上が図られているか	自動車整備士国家資格をはじめとして、業界の社会人として必要な資格の取得率向上に努めている		<ul style="list-style-type: none"> ◆各資格試験は試験結果の分析から次年度の対策授業の進め方を改善している。 ◆国家資格に関して、2級は取得率100%であるものの、1級は68.9%。 ◆トヨタ技術検定2,3級、エスティメーション3級、業務認定D級は100%取得している。 ◆ビジネス能力検定2級、文章能力検定準2級、漢字能力検定準2級は取得率が年度によってばらついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ビジネス能力検定2級、文章能力検定準2級、漢字能力検定準2級は教育ノウハウが引き継がれていない。
		◆1級国家資格の取得率の向上。	◆1級国家試験対策については通常授業内容から見直しなどにより56.5%から68.9%に向上したが、更なる改善を推進している。	◆1級国家資格の取得率の向上。

特記事項
国家資格取得率 ・2015年度 1級自動車整備士 90.9% 2級自動車整備士 100% ・2016年度 1級自動車整備士 56.5% 2級自動車整備士 100% ・2017年度 1級自動車整備士 68.9% 2級自動車整備士 100% ビジネス能力検定2級 ・2015年度 92.8% ・2016年度 95.9% ・2017年度 86.8% 文章能力検定準2級 ・2015年度 85.2% ・2016年度 89.5% ・2017年度 94.4% 漢字能力検定準2級 ・2015年度 59.6% ・2016年度 85.5% ・2017年度 76.7%

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】4-15 卒業生の社会的評価

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価のイ） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の頑張りや、昇進・昇格情報を在校生にフィードバックし、学生指導に活かす。また、当校の教育の至らない点などは教育改善に反映させる	◆今年度実施した卒業生の役職等調査を在校生にもフィードバックし、今後の学生指導に活かしていく。	◆教育課程編成委員会や学校評価委員会の学外委員より卒業生の評価を確認しているが、卒業生全体としての社会的評価は把握できていない。 ◆卒業生の技術コンクール出場等の活躍事例を在校生に紹介している。 ◆定期的（4年毎）に卒業生の役職等調査を実施している。 ◆調査結果は各教員へ展開した。	◆卒業生全体として社会でどう評価されているか調査する仕組みを検討する。

特記事項

- ◆全国トヨタサービス技術コンクールへ出場した卒業生数
 - ・2016年度 トヨペット店6名 ネット店6名
 - ・2017年度 トヨタ店10名 カローラ店8名
 - ・2018年度 トヨペット店7名、ネット店7名

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
調査結果は各教員へ展開したとあるが、学生向けへの展開の仕組みはありますか？情報収集量としては少ないのでは？	今回調査結果では、創立初期の卒業生が40代前半で役職者も少なかったため、展開は教員のみとしました。情報収集は全卒業生（自動車関係企業）に対して実施しました。

基準 5 学生支援

【中項目】5-16 就職等進路

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ【参考】(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	学生の適性に応じた就職先に就職できるよう、支援・指導する体制を整える	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆就職支援グループおよび担当が、学生の志望状況の把握および、就職先選択へのアドバイスを実施している。 ◆就職活動に不安を感じる学生に対しては、管理職による個別指導体制をとっている。 ◆就職試験不合格の学生には、次の進路情報を迅速に紹介し、面接指導を行っている。 ◆企業にお願いし、離職者数・平均勤続年数・年休取得数など労働実態も積極的に開示して、就職活動支援に活用している。 	◆就職先情報を上手く活用して、個々の特性に合った就職活動支援に繋げる。

特記事項

- ◆第1希望内定率
・2016年度 91.6%、2017年度 94.5%、2018年度 95.9%

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】5-17 中途退学への対応

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
5-17-1 退学率の低減が図られているか	入学した学生は責任を持って教育し、全員の卒業を目指す 退学を最小限に留めるような教育を実践していく	なし	◆退学を最小限に留めるよう、以下の施策を実施している。 ・成績不振者に対応するための個別勉強会 ・担任による保護者への密な電話連絡 ・保護者会での保護者との面談 ・カウンセラー・保健室でのメンタルケア	なし

特記事項

・退学率…自動車整備科（2年・卒業時）、高度自動車科（4年・卒業時）
留年・転科を除く

年度	2015	2016	2017
自動車整備科（%）	6.3	2.7	4.3
高度自動車科（%）	7.0	5.5	5.1

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】5-18 学生相談

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価のイ） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
5-18-1-1 学生相談に関する体制を整備しているか	教員が学生の悩みを早期に把握し、相談に乗る体制を整えている	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆担任は役割として学生の個別相談に対応することとしている。 ・個別面談は年2回以上実施 ◆メールによる悩みごと相談窓口を設置している。 ◆いじめ把握のアンケートを年2回実施している。 	なし
	学生のメンタルケアに関しては、教員以外に気軽に悩みなどを相談できる体制を整える。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆メンタルケアに関しては保健室及び相談室（カウンセラー（臨床心理士））を設置している。 ◆メールによる悩みごと相談窓口も設置している。 	なし
5-18-2-1 留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生に対して特別に相談できる体制を整える		<ul style="list-style-type: none"> ◆通常の相談事は担任が対応している。 ◆日本語に不安を抱える留学生に対しては、個別学習プロジェクト担当教員が個別に相談に乗っている。 ◆日本語教員資格を有する教員を育成している。 	◆次年度は留学生が更に増加するため、各部署で相談があった場合の対応方法を整備する必要がある。
		◆個別学習プロジェクトと担任の個別指導で対応しているが、留学生が増えていくと相談体制の強化が必要となる。	◆今年度は留学生数が微増であったため上記体制で対応した。	
5-18-2-2 入学検討の留学生に対する相談体制を整備しているか	入学検討の留学生に対して、出願資格や必要書類、入学後の勉強等について、相談ができる体制を整えておく。	なし	◆年間を通じてオープンキャンパスを実施し、専任の留学生担当を置き対応している。	なし

特記事項

- ・看護師1名が常勤で保健室に勤務している
- ・カウンセラーは非常勤で週2回午後、保健室に常駐している。（必要な場合は別途相談室で面談）

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
いじめアンケート調査結果を可能であれば教えて頂きたい。	嫌がらせ行為を受けた件数 2018年度 前期 10件 2017年度 前期 4件、後期 2件 2016年度 前期 8件、後期 8件 それぞれ記入者を特定し、聞き取りを実施 必要に応じて加害者に指導を行い、その後の状況を確認しています。

【中項目】5-19 学生生活

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学生・寮生の負担を軽減する措置を講じる。また、就学が困難となった場合においても学業継続できるように個別対応を行う。	◆現状の奨学金制度の見直しや新たな学費・寮費の支援制度について検討していく必要がある。	◆当校独自の奨学金制度（学費一部減免）、九州沖縄帰省費支援の他、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローンの活用により学費支援を実施している。 ◆必要な場合は学費・寮費の延納・分納の個別対応を行っており、さらに期日に納付できない学生に対しては延長や一部卒業後の返済も認めている。 ◆震災・豪雨被災者には学費減免措置等を講じている。 ◆留学生の為の各種費用の支援を実施（学費一部減免、入寮費免除）している ◆次年度より予め希望すれば月払いできる制度の導入を準備している。	・今後も世間の状況と学生の経済状況から新たな支援体制を検討する必要がある。
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学校保健安全法に基づき学生の健康管理を行う。	なし	◆保健室に学校医・看護師、相談室にカウンセラーを配置している。 ◆定期健康診断の他、心身の健康管理についての対応を適宜学生に行っている。	なし
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	遠隔地から就学してくる学生のために学生寮を設置する。また学生食堂を設置して学生の健康管理に配慮した食事提供を行う。	◆日曜祝日（食堂休み）の喫食希望調査と対応の検討が必要である。	◆432室（含む女子7室）の寮を敷地内に併設している。 ◆寮監が常駐・宿直勤務しており快適な寮生活ができる体制を整えている。 ◆学生食堂を設置しており、寮生は朝昼夕3食喫食できる。健康増進法に基づく特定給食施設として栄養管理を行っており、保健室とも連携し肥満改善など寮生の健康課題にも取り組んでいる。 ◆日曜祝日（食堂休み）の喫食希望調査を寮生に実施したところ60名程度の希望があったため対応策を検討中である。	・留学生増に伴う各種対応の検討が必要である。 ・食堂の日曜祝日営業の対応について継続検討が必要である。
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか（教育部）	学生が活発に活動できるようクラブ活動を支援する。	◆クラブ活動の活発化に向けた支援体制の改善	◆クラブ事務局を置き、クラブ活動を支援（補助金、顧問）している。 ◆各クラブに積極的な対外試合参加を推奨している（関西専門学校体育連盟に参加など）。	・クラブ活動日や試合日程・結果などが見える化し、活性化に繋げる。

特記事項

- ・ H28年度 熊本地震被災学生に対し後期学費減免3名
- ・ H30年度 西日本豪雨被災学生に対し後期学費減免3名
- ・ 寮の全面的リニューアル（H23・24）、フィットネスルームマシン更新（H28）
- ・ 平成29年7月、神戸市保健所長より表彰受賞（「神戸市優良特定給食施設推進事業」）
- ・ 平成29年度 クラブ数：16、部員数：278名（昨年269名）参加率40.5%

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
<p>5-19-3 生活環境支援体制を整備しているかについて、現状評価に寮の設置はされており、食堂もあり、寮監が常駐とありますが、 学生自身は環境面に不満はないのか？不満等声を吸い上げて、より良い設備を提供する必要があるのでは？</p>	<p>学生に対しては年に2回のアンケートを実施し改善が必要な事項については対応を行っています。 (対応例) 実習場にエアコン設置、便座クリーナー設置など また、寮においても年に1回アンケートを実施し改善に取り組んでいます。 (対応例) 長期休暇中の在寮許可要件の緩和、洗濯機の定期的な清掃実施、バイク保有許可、朝シャワーの実施など</p>

【中項目】5-20 保護者との連携

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	効果的な教育を展開するには保護者の支援が有効であり、保護者との連携を深める		<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者に年2回、学生の成績表を送付している。 ◆必要に応じて保護者と電話連絡、面談を実施している。 ◆2015年度から1年生の保護者会を毎年実施している。参加組数、担任面談組数は年々向上している。 	
		◆保護者会は現状1年生のみの実施に留まっている。	◆1年生以外の保護者会は検討中で未実施である。	・1年生以外の保護者会は検討のみに留まっている。
		■保護者会不参加の父母への開催内容の展開をしていない	■全保護者へ保護者会の実施内容を書簡にて案内した。	

特記事項
保護者会を2018年6月30日に実施 【参加組数】154組（参加率59.7%）【昨年120組（43.2%）】 【面談組数】131組（面談率85.1%）【昨年101組（84.2%）】

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
保護者会の実施内容を書簡にて案内したとあるが、何か反応はありましたか？	ありませんでした。

【中項目】5-21 卒業生・社会人

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	当校卒業後も卒業生に対し、必要な支援体制を整え、学校情報提供や支援を行う。	◆2017 年度、入社1年目卒業生への近況伺いメールの返信率（1回目 33%・2回目 13%）が低いいため、改善が必要である。	◆学校新聞を作成し、同窓会を通じて配布している。 ◆卒業生相談窓口を設置・案内し、卒業後の悩みごとを聞く体制を整えている。 ◆卒業生には3年間近況伺いメールを送り、悩みごとの返信には対応している。 ◆国家資格不合格の卒業生に学習支援をしている。 ◆2018 年度は、メールからLINEに変更し、返信率は向上した。 （1回目 97.7%・2回目 66.0%）	なし
5-21-2 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	社会人や企業に対して、状況に沿った修学支援、学習支援を行う。	◆社会人の入学に対してPR・対応を行っていない。	◆社会人が入学した場合に学費の60%が補助される「専門実践教育訓練講座」（厚生労働省）の指定を2017年度に受けており、HPにて案内している。現在1名の学生を就学支援中である。 ◆販売店の国家3級取得研修を実施している。	◆社会人・企業向けの研修プログラムも検討

特記事項
なし

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
2018年度 近況伺いの調査結果を教えてください。	(別途説明)

基準6 教育環境

【中項目】6-22 施設・設備等

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した設備・教材・教具等を整備しているか	法令等の基準を遵守し、教育上の必要性に十分対応し、かつ、学生が快適に学習・生活できる環境を整備し、維持管理を行う		<ul style="list-style-type: none"> ◆一種養成施設および認証工場の設置基準に基づき設備・教材・教具を揃えている。 ◆教育内容、学生数に対して十分な種類と数の設備・教材・教具を揃えている。 	
		◆未復元教材の復元チェック体制と、老朽化教材の更新計画の見直しが必要である。	◆2018年度から各授業で使用の教材については、期毎に老朽と復元状況を調査しリスト化し、修復・復元を始めた。	◆確実に教材の復元および更新のできる体制を構築する。
6-22-2 教育設備以外にも学校として必要な施設・設備等を整備しているか		なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設・設備は計画的な更新、環境の維持管理を行っている。 ◆夏の暑さ対策のため2018年6月に実習場にエアコンを設置している。 	◆留学生増及び多国籍化に対応した施設・設備の検討が必要

特記事項

(2016年度)

- ・新技術実習棟の増築着工。2017年3月竣工
⇒1階：実習室（リフト3基・シャシダイ1台）
2階：セミナーホール（400名収容）

(2017年度)

- ・学生用ロッカールームに扇風機を設置

(2018年度)

- ・車体整備専攻科準備（塗装ブース1台、フレーム修正機1基設置）
- ・実習場1～4階にエアコン設置
- ・修復教材：ベンチエンジン（1G：14台、2C：12台）
- ・更新教材：ベンチエンジン（4A：6台、3S：6台を1NR：12台へ）

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
<p>6-22-1 現状評価に教材の老朽と復元状況を調査しリスト化し、とありますが、どの程度のものがリストアップされていますか？参考にお伺いしたい。</p>	<p>1室 27件、2室 58件、高度科 13件の申し出があり、重複したもの、優先順位の低いものを除き、30件をリストアップ。</p>
<p>6-22-2 6月に設置されたエアコンはどれくらい稼働していますか？</p>	<p>「室温 27℃以上または湿度 70%以上」との要件を定めて 6月 25日から 9月 21日の期間（授業日 39日）、随時稼働させていました</p>

【中項目】6-23 学外実習・インターンシップ等

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
6-23-1 学外研修、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外研修等において、関係機関と連携を取り、十分な成果が上がるよう教育体制・環境を整備する	<p>◆自動車整備科の海外研修の参加者が少ない。</p> <p>■海外研修で得られる効果を学生や保護者に対して、もっとアピールしたほうが良いと思う。</p>	<p>◆学外研修は、入学時の合宿、名古屋・東京研修、安全運転講習などを行っている。</p> <p>◆インターンシップは、自動車整備科2年次に7日間程度、高度自動車科は4年次に29日間実施している。</p> <p>◆海外研修は、自動車整備科1年次の選択授業で希望者が、高度自動車科は4年次に全員アメリカ研修を実施している。</p> <p>■自動車整備科の海外研修については、書簡や保護者会で保護者にも説明し、参加を呼びかけた。</p>	なし

特記事項

自動車整備科の海外研修参加者数
 2014年度…13名
 2015年度…26名
 2016年度…18名
 2017年度…13名

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
海外研修参加の呼びかけについての結果はいかがでしたか？	現在9名が参加予定 冬休み前、1月中旬に説明会を実施し勧誘を行う

【中項目】 6-24 防災 (≒H30 防災・安全管理を分割)

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価のイ) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	法令に基づき体制を整備し 防火防災に努める。	◆防災訓練の実施方法についてさらに見直しを行う。 ◆震災発生時の対応について具体的な検討とマニュアル化が必要。	◆防火・防災管理体制を整備し日常の管理を行っている。 ◆職場防災隊を組織し、消防訓練及び防災訓練を各1回/年実施している。 (H30より消防、防災訓練を同日に実施) ◆オープンキャンパスなど休日出勤時に災害が発生した場合に対応できるようマニュアルを整備し、防災監視盤に掲示している。 ◆地震発生時の初動マニュアルを整備し、防災監視盤に掲示している。	なし

特記事項

- ・防災計画に基づく災害を想定した避難訓練の実施 (H21年6月消防法改正)
(火災想定消防訓練を5月、地震想定防災訓練10月に実施していたが、H30より5月に1日で実施)

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】6-25 安全管理

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
6-24-1 学内における安全管理体制を整備し適切に運用しているか	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理者を選任、安全計画の作成・実施・安全衛生環境委員会を設置し、学校全体の安全対策を講じる。 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備する。 		<ul style="list-style-type: none"> 安全管理者を選任し巡視を1回/月行い、安全作業の環境を維持、向上に努めている。 安全衛生環境委員会を1回/月開催し、安全計画の実施進捗管理を行っている。 寮監による夜間巡回、警備会社委託、防犯カメラ設置及び来校者は受付で入校許可証を交付し携行するよう定め防犯体制を整備している。 	
		◆不審者を発見した場合の明確なルールを定めていない。	◆未実施	◆来校者は受付で入校許可証を交付し携行するルールを再周知し、不審者を発見した場合は声掛け、総務部への連絡等対応する旨を徹底する。
		◆実習場内の少量危険物の管理状況が不明確なため改善が必要である。	◆実習場内の少量危険物の種類と数量の把握に留まっている。	◆少量危険物の管理・保管が確実にできるよう保管規定の見直しを行う。
6-24-2 授業等において学生に関する安全管理体制を整備し適切に運用しているか	学生に対して安全に授業を進めるための環境を整え、安全作業を徹底する		<ul style="list-style-type: none"> 学生に対しては、以下の安全教育を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> 導入教育での基礎的な安全教育 各実習授業ごとの安全作業の教育 交通安全の教育(車・二輪) 	◆二輪については事故が発生しているため、座学に加え実技の安全教育を検討する必要がある。
		◆より安全意識の向上を図る活動として、安全教育の見直しを行っている。	◆意識向上を図る活動として、「安全が最優先」をスローガンに「安全の基本5行動」の徹底を図っている。	

特記事項

- 防犯カメラ29箇所設置
- H30年度4～10月の授業中のケガ0件(27年度は2件、28年度は6件、29年度4件)

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
安全宣言を取り入れてみてはいかがでしょうか？	当面「安全が最優先」「安全の基本5行動」の徹底を図っていきます

基準 7 学生の募集と受け入れ

【中項目】 7-25 学生募集活動

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価のイ) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	対象者が在籍する教育機関に情報を開示、提供し、当校理解の促進を図る	◆H/Pをはじめとする、情報発信ツールのメンテナンスを継続的に実施する。	◆以下事項にて情報提供に取り組んでいる。 ・新学科設置に合わせて学校H/Pをメンテナンスし学校案内、入試要項を公開 ・「学校案内」の高校、日本語学校への配布(西日本) ・高校、日本語学校訪問活動にて情報提供 ・高校進学相談会参画 ・高校教員向け学校見学会(西日本)	◆情報発信ツールの継続的なメンテナンスを実施する。
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	入学定員を満たすべく、学校活動の内容を紹介する機会(オープンキャンパス)等を通じ、事実に基づく広報活動を展開する。	◆結果を検証し、実効性のある募集活動を企画する。	◆事実に基づく情報提供、広報活動を適切に実施している。 ◆前年結果を踏まえ、募集活動の再構築を行った。 ・年間を通じたオープンキャンパスの実施 ・競争をベンチマークした入試制度の改訂 ・留学生、女性等重点ターゲットへの活動 ・普及著しいWEBに対応した情報発信力の強化	◆結果を検証し、実効性のある募集活動を企画する。

特記事項

なし

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
学生募集に関して、もっと販売店とタイアップを図った活動を実施しては？	販売店側からイベントの案内を頂いた場合、可能な限り参画しており、今後もそのようなイベントがある際にはお声かけ頂きたい。

【中項目】7-26 入学選考

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ[参考] (前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学選考基準を規定で明確に定め、入学試験要項上に記載し適切に運用する	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆入学選考基準（編入学も含む）に基づき入学試験を適切に実施している。 ◆環境の変化に即し、入試区分の整備（AO、留学生）とそれに合わせた選考基準の見直しを行っている。 	◆学業成績を踏まえた入学選考基準を整備する。
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学選考に関する実績情報を正確に管理し、入学後の授業運営や、財務計画策定等に反映する。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆学科ごとの合格数、辞退数を管理し総務部へ連絡⇒財務計画、予算立案へ反映している。 ◆入学者の入試成績を踏まえ、教育部にて入学前フォローに活用している。 	なし

特記事項

なし

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】7-27 学納金

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ【参考】（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
7-27-1 学納金は環境の変化に併せ適宜見直しを行っているか	・学校の収支、他校の状況を勘案し決定する。	◆新設学科の学費を決定する。	◆経費削減に取り組み学費・寮費及び預り金の低減努力を行っている。 ◆新たな設備投資に向けて、他校状況を勘案し平成31年度入学生より学費を改定。同時に新設学科の学費を定めた。 ◆新設学科の学費を定め、募集要項に掲載している。	なし
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	文部科学省通達に基づき適正に取扱う	なし	◆3月末までに辞退の申し出があった場合は入学金以外全額を返金している。	なし

特記事項

- ・H27年度寮費改定 210000円→198000円/半期
- ・H31年度入学生より学費改定（H19年度以来の改定）
（自整科）940000円→985000円/年、（高度科）980000円→1025000円/年（H31開設）
- ・ショールームスタッフ科 入学金 260,000円、学費 985000円/年
- ・車体整備専攻科 入学金 250,000円（内部進学 120,000円）、学費 1070000円/年

《学校関係者評価》

特に意見なし

基準 8 財務

【中項目】 8-28 財務基盤

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・定員確保に努め、単年度収支黒字の維持に努める。 ・中長期的に必要な施設設備に必要な資金を留保する。 ・資金は安全確実な運用を行う 	◆次年度は学生数減による収入減が見込まれるため対応が必要である。	◆H30年度は学生数減、及び新設学科準備の影響により単年度収支はマイナスの見込み。但し、資金的には余裕があり、中長期的に必要な資金は十分に留保し、社債等で運用している。	◆新設学科を含め定員確保に努め単年度収支を改善する。
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	適切な財務運営を行うために、収支状況、財産目録、貸借対照表などについて、分析を行う	同上	◆毎月、月次決算で予算の執行状況・実績の対前年増減など報告し主要な財務数値について適宜分析を行っている。	なし

特記事項

・28年度より学校会計基準変更(消費収支計算書⇒事業活動収支計算書)。

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】8-29 予算・収支計画

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	単年度ごとに事業計画・予算を立案する。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆部門毎に事業計画案と年度予算案を立案し、全校で調整を行っている。 ◆中期計画は、必要なものは予定表を作成・更新し、これに基づき毎年事業計画・予算立案を行っている。 	なし
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算は計画に従って執行する。 月次・中間決算により予算/実績の進捗を適正に管理する。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆毎月、月次決算で予算の執行状況・実績の対前年増減など確認し、予算計画に従って執行できている。予算外の案件が生じた場合は寄付行為等に従って適正に執行管理を行っている。 ◆H30 年度収入は予算立案のミスにより 1500 万円の収入未達となる。 	◆学生数の見込み精度をあげ、収入予算の適正化を図る。

特記事項

・28 年度より学校会計基準変更のため、予算書の様式を変更。

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】 8-30 監査

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕(前年度評価のイ) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	監事及び公認会計士による監査を実施する	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆監事に中間・期末決算と事業報告を行い監査を受けている。 ◆公認会計士による監査を1回／年実施している。 	なし

特記事項

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】8-31 財務情報の公開

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	法令通りに対応し公開を行う。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆私立学校法に定める財務情報公開基準に基づき利害関係者が財務諸表を閲覧できる体制は整備している。 ◆職業実践専門課程の認定要件を満たすためH27年度より決算書を学校HPにて公開している。 	なし

特記事項

なし

《学校関係者評価》

特に意見なし

基準 9 法令の遵守

【中項目】9-32 関係法令・設置基準等の遵守

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
9-32-1-1 一種養成施設、認証工場の法令・専修学校設置基準等を遵守しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 関係所轄、業界各団体・企業、高校、保護者等社会からの信頼を得よう法令を遵守する。 教職員に対し、法令遵守教育を実施し徹底する。 	なし	◆一種養成施設、認証工場の法令や専修学校設置基準に対して、設備・教育時間数・教員数などを必要要件を満たして運用を行っている。	なし
9-32-1-2 法令・専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか		<ul style="list-style-type: none"> ◆各部点検を継続実施する。 ◆トヨタの自主点検結果において残り2項目の課題への対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各部で法令遵守状況及び届出実施状況を毎年度3月に点検を実施する。 ◆7級職以上の教職員を対象に、不正防止研修をH30年1月に実施した。 ◆固定資産管理・実地棚卸要領の作成は未実施となった。 	◆未実施の固定資産管理・実地棚卸要領の作成を行う。
9-32-2 学校が保有する個人情報等を法の主旨に則り管理しているか	個人情報の漏洩は社会からの信用を失うことになるため、慎重に取り扱う必要がある。そのため規程を定め、適切に運用していく。	◆H30年3月に総務部にて内部監査を実施予定である。	<ul style="list-style-type: none"> ◆個人情報保護規定を策定し、外部に個人情報保護方針を公表している。 ◆H30年3月・8月にの内部監査を実施。 	◆個人情報目録は毎年継続して更新し点検を行う。

特記事項

- ・H25 身障者雇用促進法改正に対応し、H28年4月1名採用
- ・H25 学校法人会計基準改正によりH28より決算書の様式変更
- ・H27 マイナンバー法施行対応
- ・H28 トヨタの自主点検実施結果、未対応の課題
 - ① 不正防止のための研修を実施していない
 - ② 固定資産管理・実地棚卸要領がない

《学校関係者評価》

委員からの意見等	学校側コメント等
障害者雇用率を教えてください	1.42%です。
固定資産管理・実地棚卸要領の作成は未実施となったとあるが、自主点検から2年経っていますが、できていない要因を教えてください。	優先度が低いため今年度は工数不足で実施できませんでした。（次年度実施）

【中項目】9-33 学校評価

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	実施に係る組織体制を整備し、文部科学省のガイドラインに則して、毎年度実施する。	なし	◆毎年度実施している。 ◆当校の実態に即した評価を実施するため、必要に応じて評価項目の内容を追加・変更・削除する。	なし
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	ホームページに掲載し公表する	なし	◆毎年度公表している。（7月更新）	なし
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	委員会を設置して、毎年度実施する。	なし	◆毎年度実施している。	なし
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	ホームページに掲載し公表する	なし	◆毎年度公表している。（7月更新）	なし

特記事項

- ・専修学校は、教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする（学校教育法施行規則第66条、第189条）
- ・専修学校は自己評価の結果を踏まえた関係者による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。（学校教育法施行規則第67条、189条）
- ・職業実践専門課程の認定要件の1つに企業等と連携して学校関係者評価委員会を設置し、評価を実施・公開するよう定められている。

《学校関係者評価》

特に意見なし

【中項目】9-34 教育情報の公開

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ〔参考〕（前年度評価の工） 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
9-34-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	学生、保護者、関連業界等広く社会に教育情報を公開する。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校案内パンフレットや学校ホームページで学校概要・教育内容・教員等を公開している。 ◆新入学生保護者向けに、教育方針、教育内容、担当教員などを記載した書簡を送付している。 ◆2015年度より情報公開や保護者への教育内容理解のため新入学生向け保護者会を実施している。 ◆自己点検自己評価、学校関係者評価の結果や学校運営情報をホームページで公開している。 	なし

特記事項

2017年9月学校ホームページを全面更新

《学校関係者評価》

特に意見なし

基準 10 社会貢献・地域貢献

【中項目】 10-35 社会貢献・地域貢献

《自己点検・自己評価結果》

小項目	ア 考え方・方針	イ [参考](前年度評価の工) 課題と解決方向	ウ 現状評価	エ 課題と解決方向
10-35-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	社会・地域貢献の観点から可能な範囲で実施する	なし	◆学園祭で地域の方に参加していただけるようなイベントを企画し、実施している。	なし
			◆高校に出向き、進路相談会や出張授業に参画し、生徒の進路選択に貢献している。	なし
			◆地域住民、近隣学校の体育授業にテニスコートを貸し出している。 ◆2014年度より地域の少年野球チームにグラウンドを貸し出している。 ◆近隣中学生のトライやるウィーク（職業体験）を受け入れている。	◆職員のボランティア活動に対する支援について検討が必要である。
10-35-2 国際交流に取り組んでいるか（教育部）	留学生の入学を積極的に受け入れ、資格取得、就職を果たさせることで国際貢献する	◆インドネシア、ミャンマーからの留学生の資格取得と就職内定。	◆留学生の積極的な受け入れに取り組み、奨学金制度（納付金の一部免除）も導入している。 また、日本語教育の充実のために日本語教師資格を持った教員を配備。 ◆留学生の入学を受け入れ、資格取得、就職を果たせている。 ◆今年度は新たにインドネシア、ミャンマーからの留学生を受け入れている	なし
10-35-3 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	学生に社会性を育む教育の一環として、ボランティア活動を奨励していく。	なし	◆学校内での献血活動（2回/年）を実施している。 ◆寮生は地域清掃活動へ参加している。 ◆1年の選択授業で災害ボランティア活動をメニューに入れ、奨励している。	◆ボランティア活動の促進を行う必要がある。

特記事項

- ・グラウンド、テニスコート2面（うち1面はフットサル兼用）あり
- ・テニスコートは平日、近隣住民に貸出をしている
- ・2018.1～9月実績 145校の高校の進路相談会に参画
- ・2017年度献血活動実績（ ）内は昨年実績
学生・職員対象：288名（302名）
学園祭：54名（69名）
- <2017年：兵庫県献血推進協議会会長（井戸県知事）より感謝状受贈>
- ・2017年度トライやるウィーク受け入れ実績：7名
（太山寺中学2名、伊川谷中学2名、鷹取中学2名、垂水東中学1名）

《学校関係者評価》

特に意見なし